

地球温暖化対策に関するアンケート 結果概要

1 地球温暖化に関するアンケートについて

「第2次豊橋市地球温暖化対策地域推進計画」改訂にあたり、市民・事業者に対して地球温暖化対策に対する意識、再エネ導入・省エネ化・その他脱炭素への取組についての意向・意見、施策に対する提言等を抽出することにより、地域の現状とニーズを把握し、脱炭素施策を立案するに当たっての根拠として活かすことを目的として、地球温暖化に関するアンケートを実施しました。

アンケートの詳細は次のとおりです。

2 アンケートの概要

◆ 調査対象

市民	市が無作為抽出した豊橋市内在住の市民 1,500 名
事業者	市が無作為抽出した豊橋市内の事業所 400 社

◆ 調査方法・調査期間

市民	令和6年12月24日(火)	アンケート調査票の郵送、Web フォームでの回答受付開始
	令和7年2月14日(金)	アンケート調査回答締め切り
事業者	令和7年2月7日(金)	アンケート調査票の郵送開始
	令和7年3月7日(金)	アンケート調査回答締め切り

◆ 調査アンケートの回答状況

【市民アンケート】

配布数 1,500 人に対して、回答数 406 人（回収率 27.07%）となりました。
回答内訳：郵送 285 件、ウェブフォーム 121 件

【事業者アンケート】

配布数 400 社に対して、回答数 130 社（回収率 32.5%）となりました。

◆ 調査内容

市民	事業者
<ul style="list-style-type: none"> 基本事項 地球温暖化に対する意識について 地球温暖化対策に繋がる取り組みの実施状況 省エネルギー設備等の導入について 太陽光発電の導入について 自動車利用について 市・地域の取り組みについて みなさまのご意見について 	<ul style="list-style-type: none"> 基本事項 電力契約状況について 地球温暖化に対する意識について 地球温暖化対策に繋がる取り組みの実施状況 省エネルギー設備等の導入について 再生可能エネルギーの導入について 自動車利用について 補助金・交付金の活用について 市・地域の取り組みについて みなさまのご意見について

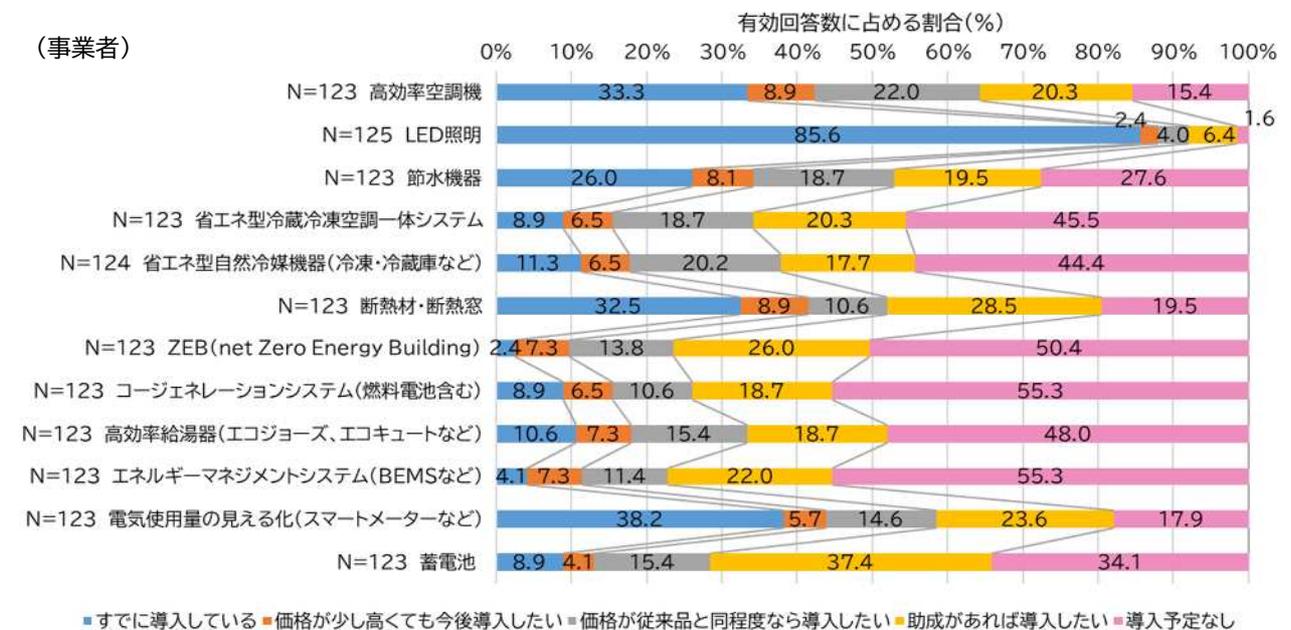
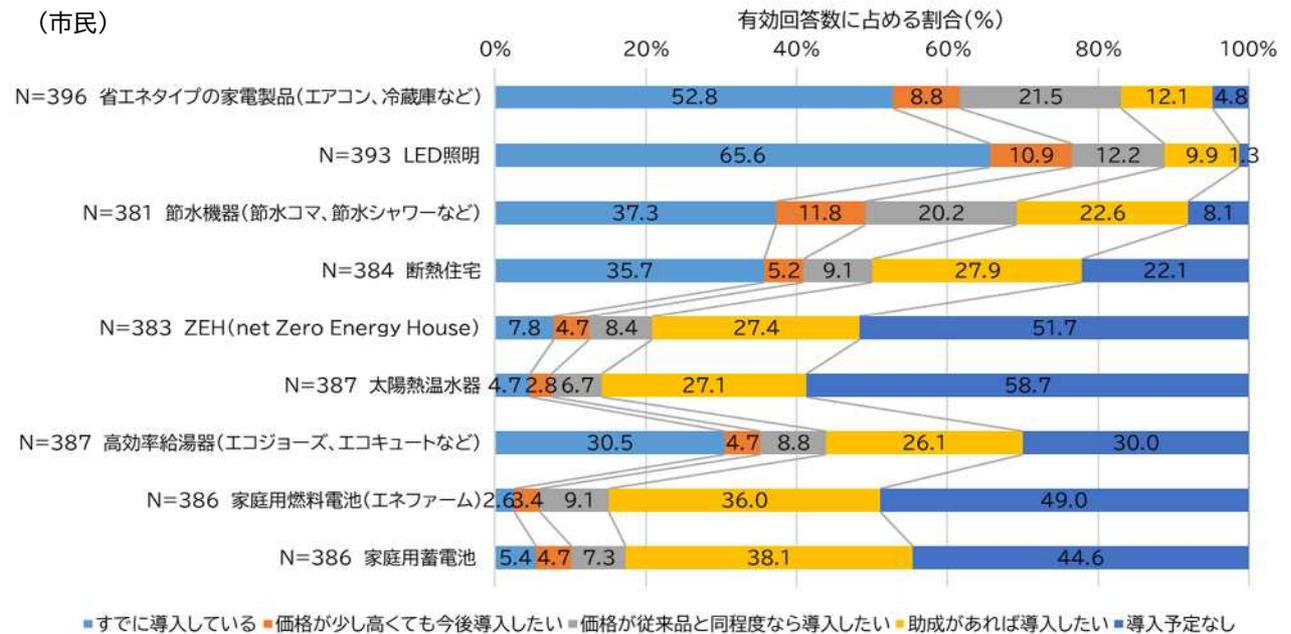
3 アンケート結果のまとめ

① 省エネルギー設備等の導入促進

【アンケート結果内容抜粋】

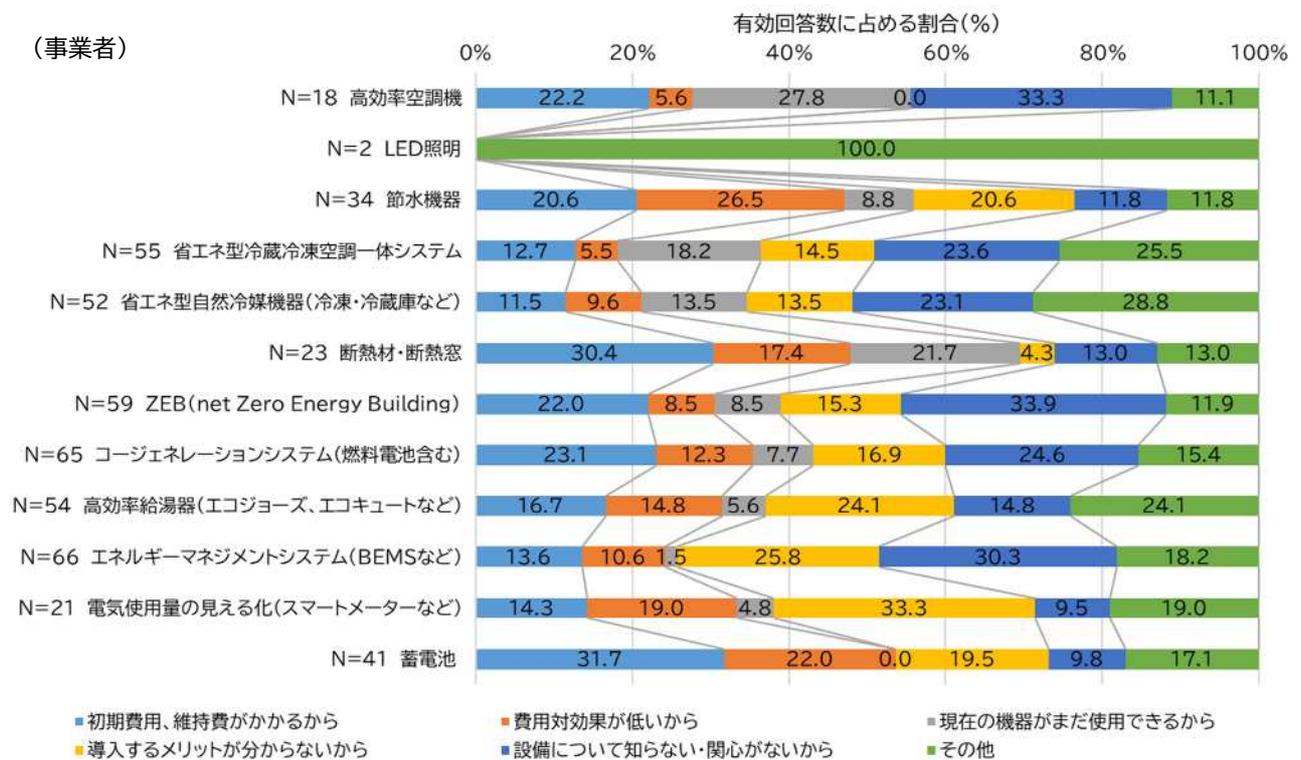
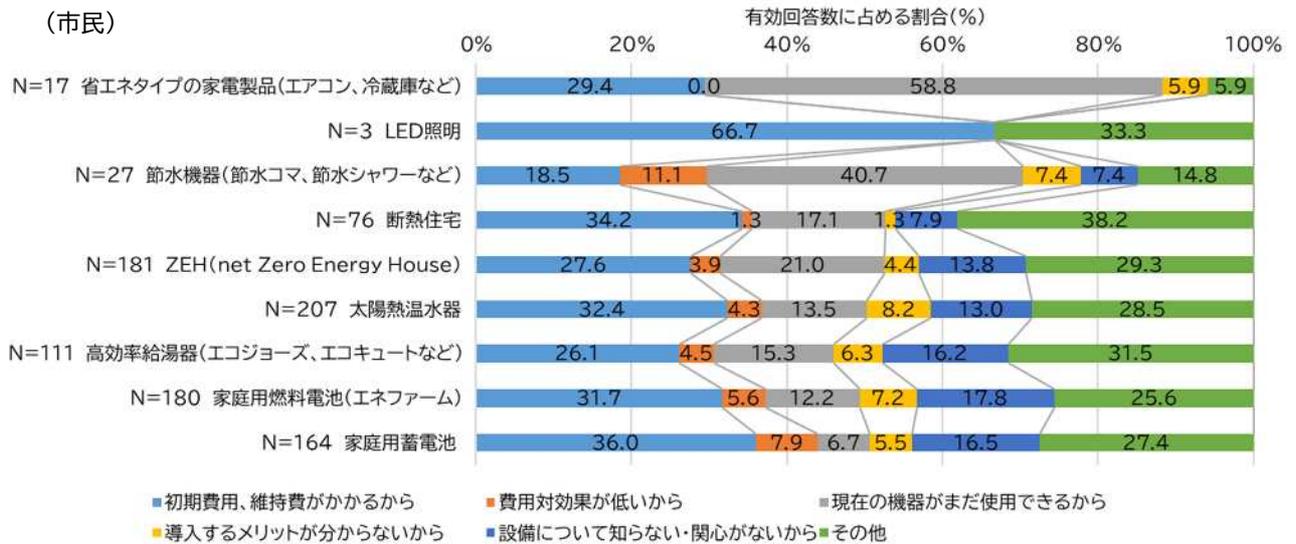
- ◆ 市民、事業者アンケートとも、導入率が低い省エネルギー設備等については、「助成があれば導入したい」が比較的多く見られました。（問1 グラフ参照）

問1 省エネルギー設備等の導入状況について、導入状況や導入の意向に近いものはどれですか。



- ◆ 省エネ設備等を導入しない理由として、市民アンケートでは「初期費用、維持費がかかるから」「現在の機器がまだ使用できるから」が多く見られ、事業者アンケートでは、「設備について知らない・関心がないから」「初期費用、維持費がかかるから」「導入するメリットが分からないから」が多く見られました。（問2グラフ参照）

問2 「導入予定なし」の省エネルギー設備等について、その省エネルギー設備等を導入しない理由は何ですか。



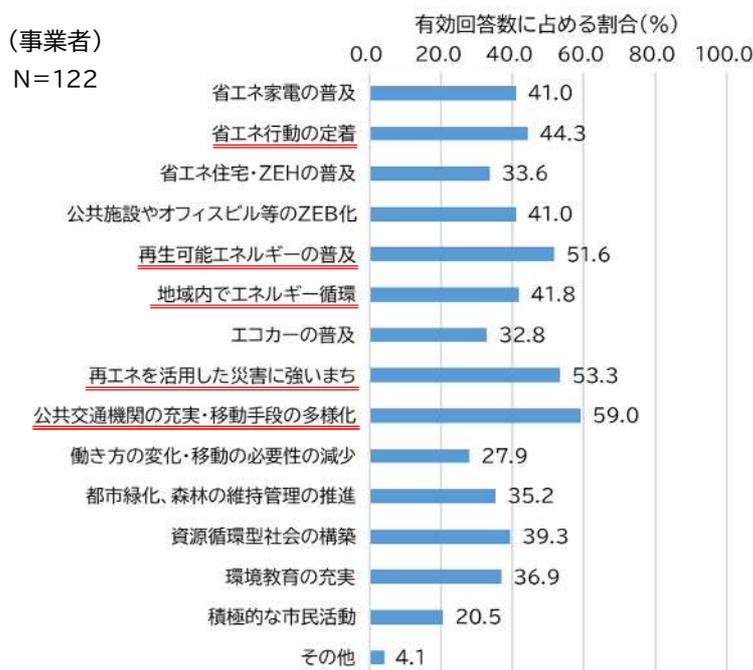
- ◆ 市に期待する地球温暖化対策については、市民、事業者とも上位5位以内に「最新の省エネ技術を用いた家電や設備の導入促進」が含まれています。（問3グラフ参照）

問3 豊橋市に期待する地球温暖化対策は何ですか。(複数回答)



- ◆ 理想とする2050年の豊橋市の将来像についても、市民、事業者とも上位5位以内に「省エネ家電の普及」または「省エネ行動の定着」が含まれています。（問4グラフ参照）

問4 2050年に豊橋市でどのような暮らしが広がっているとよいと思いますか。（複数回答）



まとめ

- ✓ 省エネルギー設備等の用途や技術、効果について周知し、導入を促進していく必要があります。
- ✓ 導入促進のために様々な助成制度の周知が有効であると考えられます。

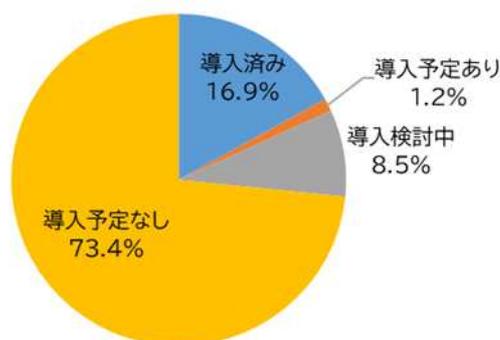
② 再生可能エネルギーの導入・活用の促進

【アンケート結果内容抜粋】

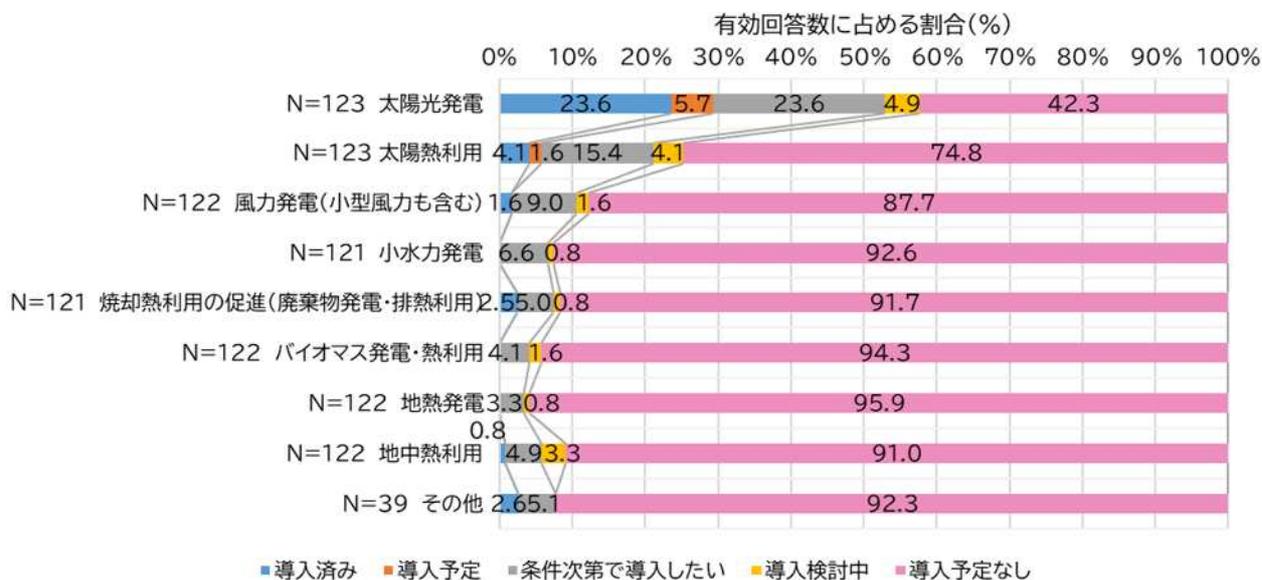
- ◆ 家庭での太陽光発電の導入状況について「導入予定なし」が70%以上となっており、市民の多くが導入を検討していないことがうかがえます。事業者についても、再生可能エネルギーの導入状況として、「太陽光発電」の「導入済み」が最も多く約24%、次いで「太陽熱利用」が約4%「導入済み」となっています。これら以外の「風力発電」「小水力発電」「焼却熱利用の促進」「バイオマス発電・熱利用」「地熱発電」「地中熱発電」は90%前後が「導入予定なし」となっています。（問5、問6グラフ参照）

問5 家庭での太陽光発電の導入状況

N=402



問6 事業所での再生可能エネルギーの導入状況



- ◆ 太陽光発電を導入しない理由は市民、事業者とも「初期費用がかかるから」や「維持（メンテナンス等）に費用や手間がかかるから」が約5割と多くなっています。（問7グラフ参照）
- ◆ 市に期待する地球温暖化対策については、市民、事業者とも上位5位以内に「再生可能エネルギーの導入・活用の促進」「再生可能エネルギーと蓄電池を併用した災害に強いまちづくりの普及促進」が含まれています。（前記の問3グラフ参照）
- ◆ 理想とする2050年の豊橋市の将来像については、市民、事業者とも上位5位以内に「再エネを活用した災害に強いまち」が含まれています。（前記の問4グラフ参照）
- ◆ 豊橋市内に太陽光発電を導入する場合、市民、事業者とも、優先的に導入すべき場所として、「公共施設の屋根」が約7割と最も多くなっています、次いで「大規模な工場の屋根」「大規模商業施設の屋根」が多くなっています。（問8グラフ参照）

問7 太陽光発電の導入をしない理由(「導入予定なし」回答者のみ)(複数回答)



問8 豊橋市内に太陽光発電を導入する場合、どのような場所に優先的に導入するべきだと思いますか。(複数回答)



まとめ

- ✓ 再生可能エネルギーの導入・活用を促進し、災害に強いまちづくりを行う必要があります。
- ✓ 太陽光発電については、導入促進のために様々な助成制度の周知が有効であると考えられます。
- ✓ 公共施設にも太陽光発電を導入することを検討していく必要があります。

③ エコカーの導入促進

【アンケート結果内容抜粋】

- ◆ 現在家庭内で使用している自動車について、「ガソリン車」が約 76%、次いで「ハイブリッド車」が約 35%であり、「電気自動車」「プラグインハイブリッド車」はそれぞれまだ 1.5%程度と少なくなっています。また、事業所内で使用している自動車については「ガソリン車」が約 90%、次いで「ハイブリッド車」が約 48%、「軽油自動車」が約 42%となっています。一方で「電気自動車」は約 12%、「プラグインハイブリッド車」は 6.5%と少なくなっています。（問 9 グラフ参照）
- ◆ 市民、事業者ともエコカー（ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池自動車）の「購入（リース）の予定なし」の回答が過半数を超えています。（問 10 グラフ参照）

問 9 使用している自動車(リースを含む)の種類すべてを選んでください。(複数回答)



問 10 ガソリン車や軽油自動車をエコカー(ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池自動車)に買い替える予定はありますか。(「1. ガソリン車」「2. 軽油自動車」を使用しているとお答えの方のみ)



- ◆ 市民、事業者ともエコカーの「購入（リース）の予定なし」の理由の上位3位に「そもそも自動車自体の買い替えの予定がないから」「購入費用が高いから」「EV スタンドや水素ステーションが少ないから」が含まれています。（問 11 グラフ参照）
- ◆ エコカーの導入理由としては、市民、事業者とも「燃料費を削減できるから」が多くなっており、経済的なメリットも導入意欲に繋がっていることがうかがえます。（問 12 グラフ参照）

問 11 エコカーを導入しない理由(「購入(リース)予定なし」回答者のみ)(複数回答)



問 12 エコカーを導入する理由(「購入(リース)予定あり」回答者のみ)(複数回答)



まとめ

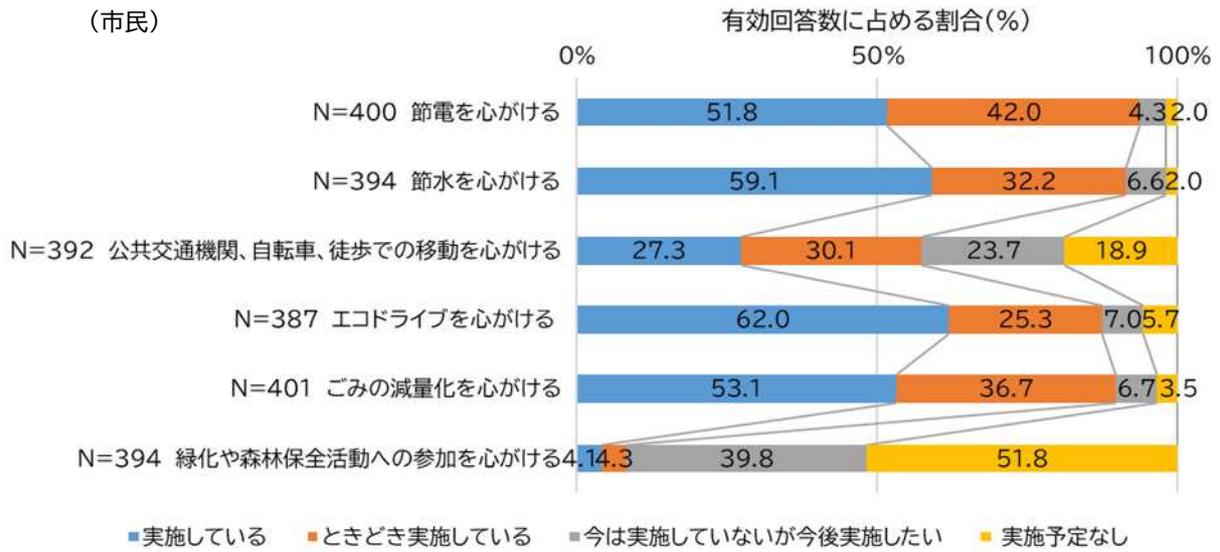
- ✓ エコカーの導入の経済的メリットや、効果等についても周知する必要があります。
- ✓ 市内へのEV スタンド等のインフラ整備についても検討し、エコカー導入を促進していく必要があります。
- ✓ エコカーの導入促進のために、様々な助成制度の周知が有効であると考えられます。

④ 公共交通の利便性向上

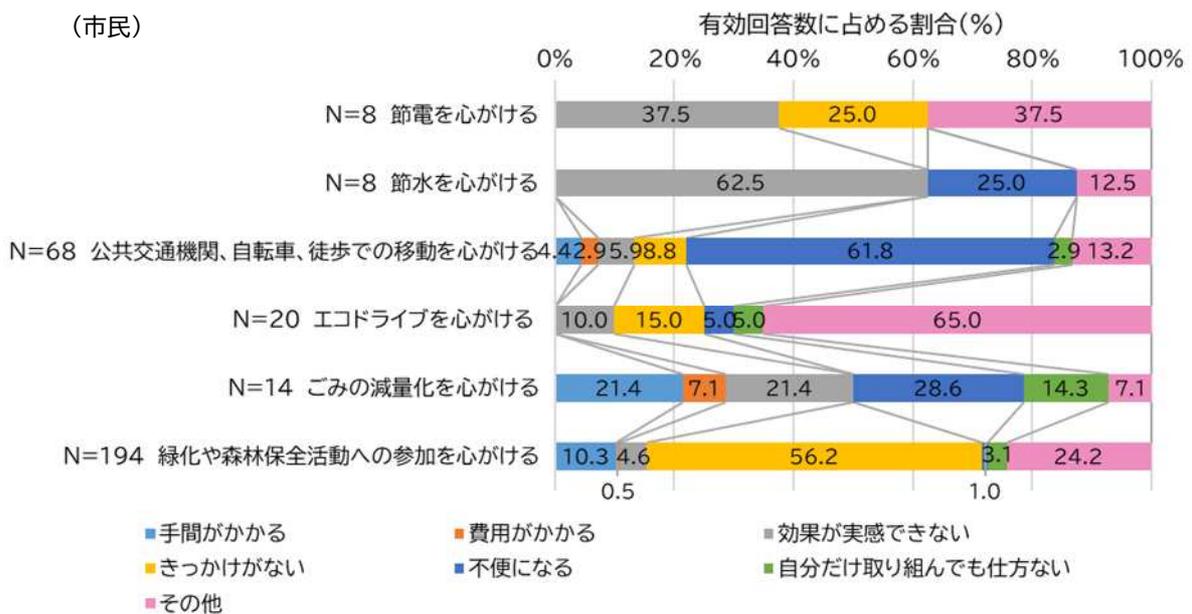
【アンケート結果内容抜粋】

- ◆ 市民アンケートにて、日常生活の中での地球温暖化対策に繋がる取り組みの実施状況について、「公共交通機関、自転車、徒歩での移動」を「実施予定なし」と回答したのは約2割となっており、「実施予定なし」の理由としては「不便になる」が6割以上を占めています。（問13、14 グラフ参照）

問13 日常生活の中で地球温暖化対策に繋がる取り組みをどのくらい実施していますか。



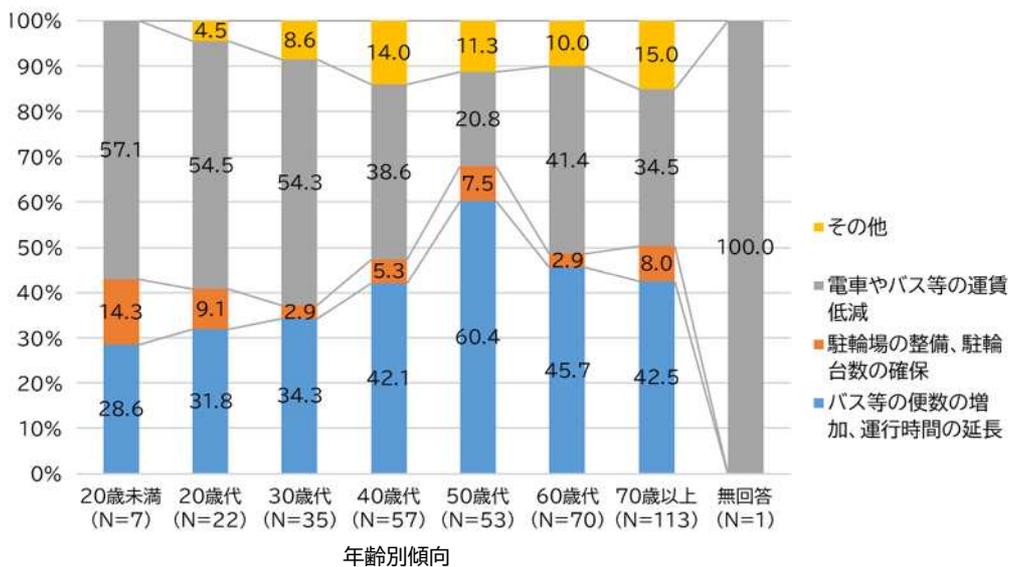
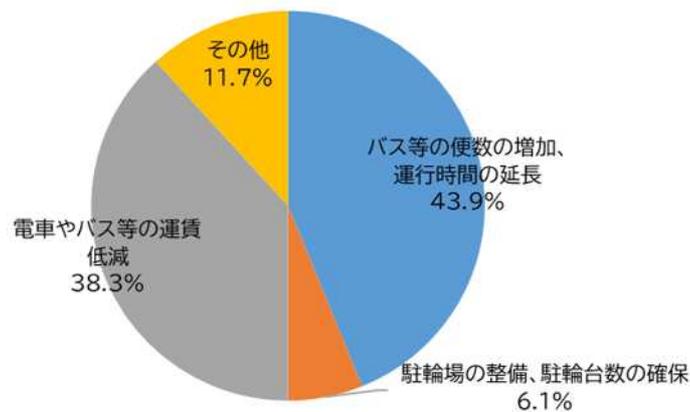
問14 その取り組みを実施しない理由は何ですか。(「実施予定なし」回答者のみ)



- ◆ 市民アンケートにて、公共交通機関等をより利用したくなるために重要だと思うこととして、「バス等の便数の増加、運行時間の延長」が4割強、次いで「電車やバス等の運賃低減」が4割弱と、公共交通の利便性向上を条件に挙げる人が多い結果となっています。（問15グラフ参照）
- ◆ 豊橋市に期待する地球温暖化対策として市民の意見として最も多かったのは「公共交通機関の整備・利用促進」、事業者の意見として最も多かったのは「インフラ整備による交通渋滞の緩和」で、それぞれ5割以上となっています。事業者は次いで「公共交通機関の整備・利用促進」が多くなっています。これらより、市民・事業者の公共交通への関心の高さがうかがえます。（前記の問3グラフ参照）
- ◆ 理想とする2050年の豊橋市の将来像について、市民、事業者とも「公共交通機関の充実・移動手段の多様化」が最も多くなっています。（前記の問4グラフ参照）

問15 公共交通機関等をより利用したくなるために重要だと思うことは何ですか。

N=358



まとめ

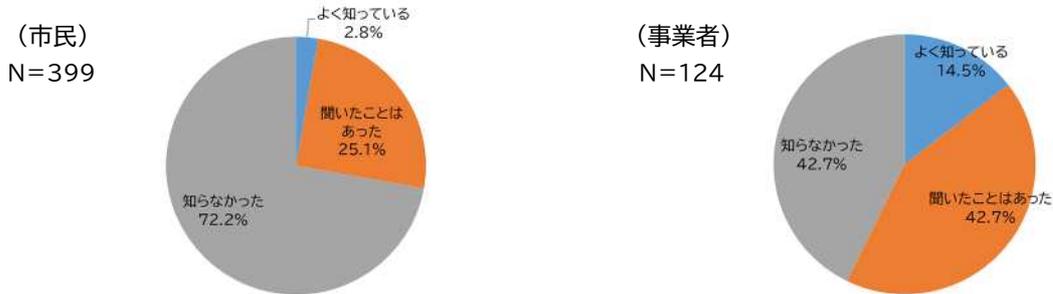
- ✓ バス等の便数の増加、運行時間の延長、電車やバス等の運賃低減等の公共交通の利便性向上を求める声がありました。
- ✓ 公共交通機関を利用しやすい環境の整備促進が有効であると考えられます。

⑤ 市・地域の環境に対する取り組みの周知

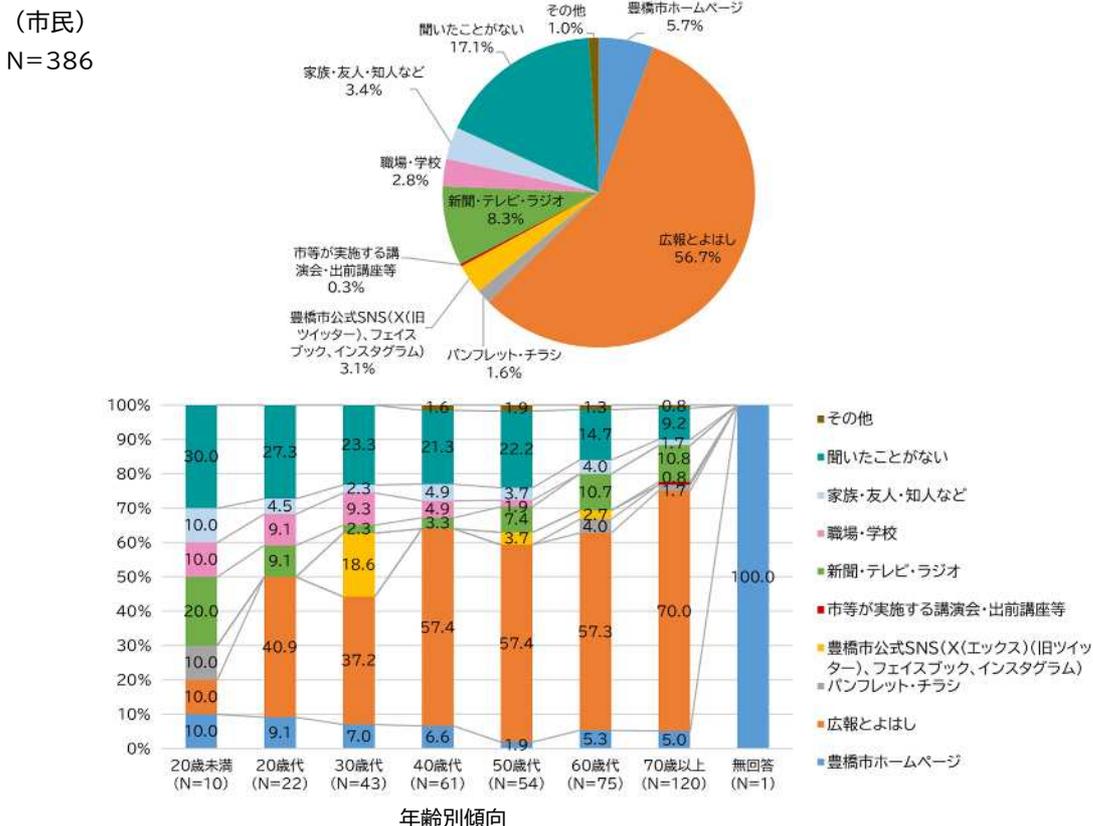
【アンケート結果内容抜粋】

- ◆ 「ゼロカーボンシティとよはし」宣言の認知度について、市民は「知らなかった」が70%強、「聞いたことはあった」が約25%、「よく知っている」は3%弱と市民の認知度が低い状況になっています。事業者については、「よく知っている」「聞いたことはあった」が合わせて約57%、「知らなかった」が約43%となっており、半数近くの市内事業者が「ゼロカーボンシティとよはし」宣言を知らないという結果となっています。（問16グラフ参照）
- ◆ 市民の豊橋市の環境の取り組みに関する情報源は「広報とよはし」が最も多く、次いで「新聞・テレビ・ラジオ」、「豊橋市ホームページ」となっています。20歳未満では「広報とよはし」の割合が他世代と比較して低く、代わりに「新聞・テレビ・ラジオ」が多くなっています。30歳代では「豊橋市公式SNS」が他の世代より多くなっています。また若年層ほど、豊橋市の環境の取り組みについて「聞いたことがない」が多くなる傾向が見られました。（問17グラフ参照）

問16 「ゼロカーボンシティとよはし」を目指すことを表明したことを知っていましたか。

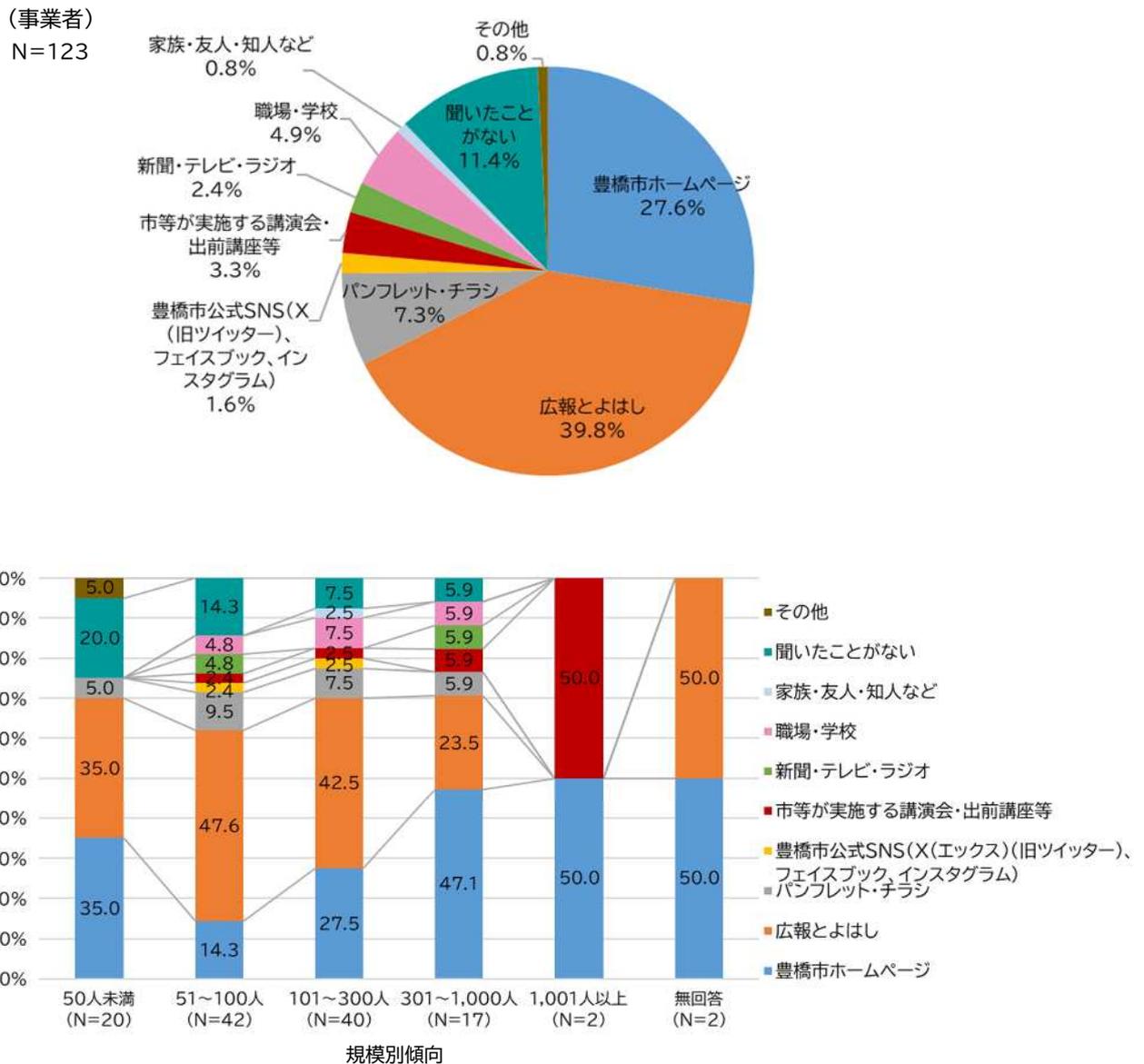


問17 豊橋市の環境の取り組みに関する情報を、どのように知ることが多いですか。



- ◆ 事業者の豊橋市の環境の取り組みに関する情報源は「広報とよはし」が最も多く、次いで「豊橋市ホームページ」、「パンフレット・チラシ」となっています。規模が小さい事業所ほど、豊橋市の環境の取り組みについて「聞いたことがない」が多くなる傾向が見られました。また、規模が大きい事業所ほど豊橋市の環境の取り組みに関する情報源として「市等が実施する講演会・出前講座等」が多くなる傾向が見られます。（問 18 グラフ参照）

問 18 貴事業所では、豊橋市の環境の取り組みに関する情報を、どのように知ることが多いですか。



まとめ

- ✓ 「ゼロカーボンシティとよはし」を目指すことについて、市民、事業者が受け取りやすい周知の仕方を検討し、周知を図る必要があります。
- ✓ SNS の活用など、若年層及び小・中規模の事業所が受け取りやすい周知方法についても検討しながら、豊橋市の環境の取り組みに関する情報を発信していく必要があります。

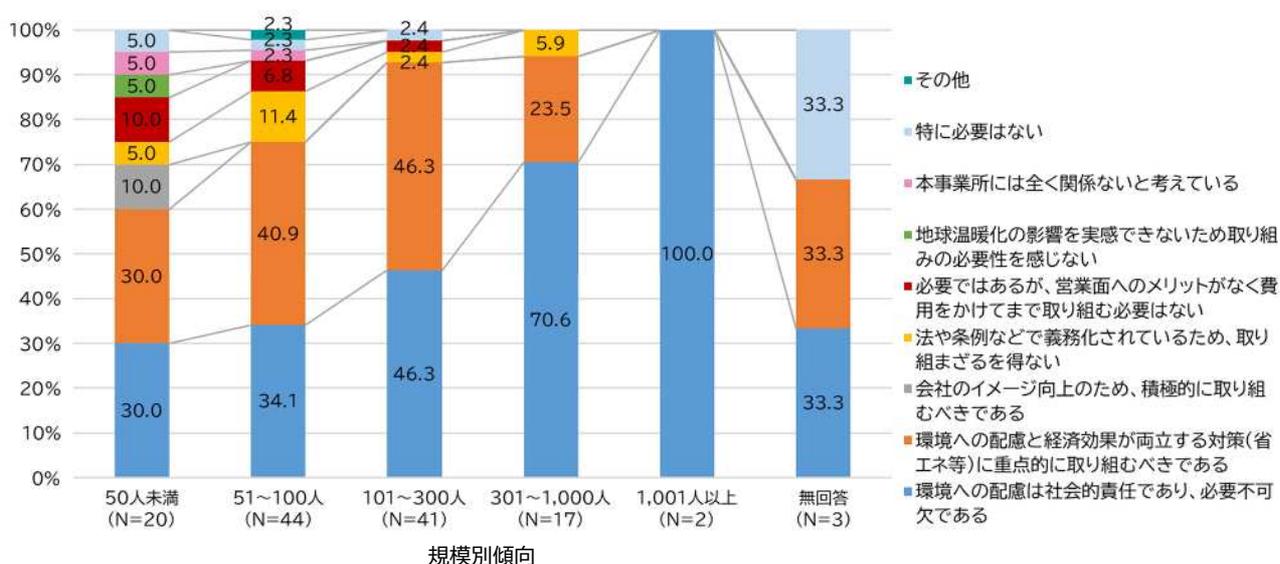
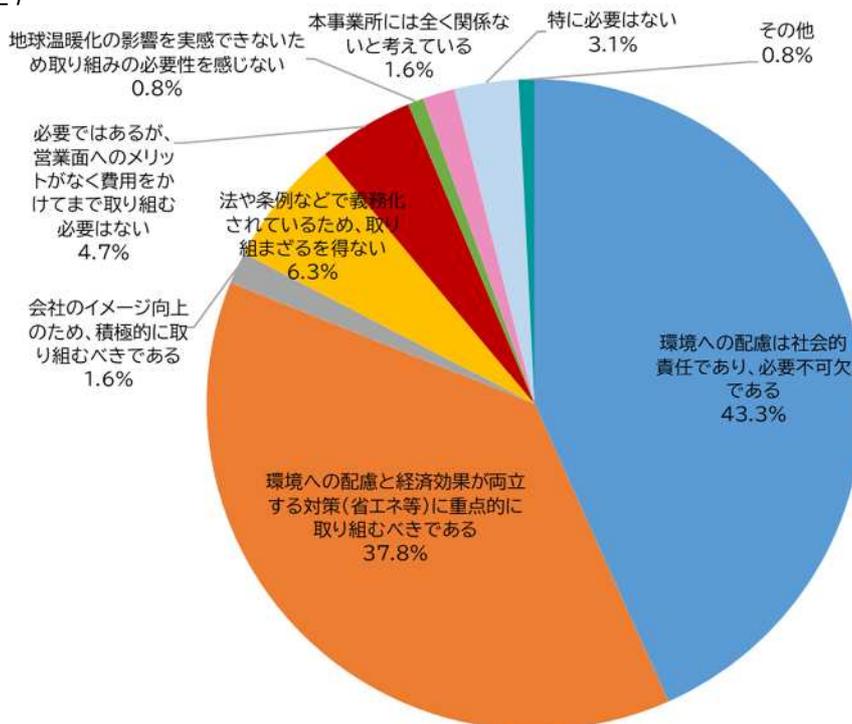
⑥ 事業所（特に小・中規模事業所）への情報提供や支援

【アンケート結果内容抜粋】

- ◆ 事業所の地球温暖化に対する取り組みについて「法や条例で義務化されているため、取り組まざるを得ない」「必要ではあるが、営業面へのメリットがなく費用をかけてまで取り組む必要はない」「地球温暖化の影響を実感できないため取り組みの必要性を感じない」「本事業所には全く関係ないと考えている」等の消極的な意見も2割程度見られました。規模別傾向を見ると、規模が小さい事業所ほど消極的な意見が多く見られることがわかりました。（問19グラフ参照）

問19 地球温暖化に対する取り組みについてどのように考えていますか。

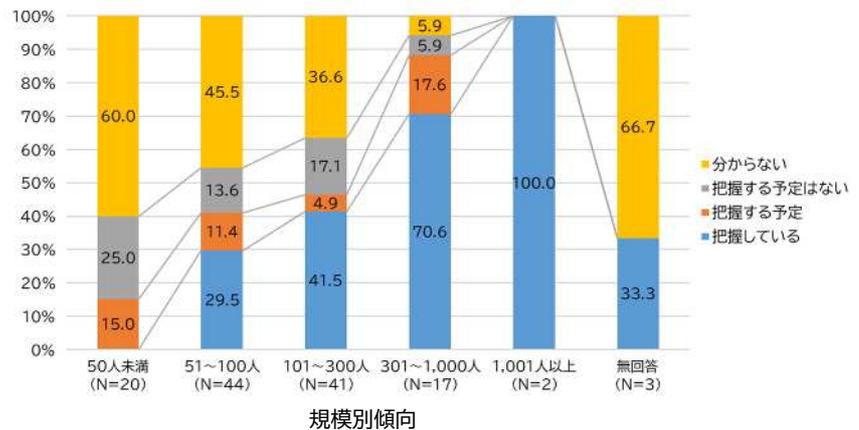
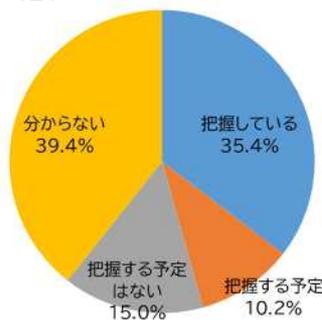
N=127



- ◆ 温室効果ガスの排出量把握について、事業所の規模が小さいほど「把握する予定はない」「分からない」の回答が多くなっています。（問 20 グラフ参照）
- ◆ 温室効果ガス排出量算定のツールについて、「利用したい」が最も多く約4割、「すでにツールを利用して算定している」も約2割となっており、双方合わせて過半数を占めていることから、事業所の多くが温室効果ガス排出量算定のツールに関心を持っていることがうかがえます。（問 21 グラフ参照）
- ◆ 地球温暖化対策の取り組みを実施する上で障壁と感じていることについて、「設備投資に伴う、予算的な問題がある」が約6割強、次いで「専門的な知識を持つ人材が不足している」が約6割弱と多くなっています。（問 22 グラフ参照）

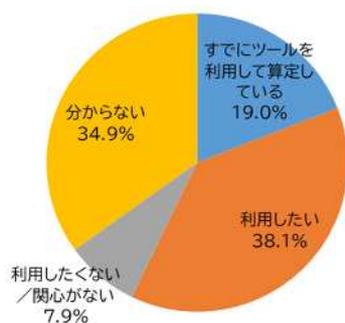
問 20 現在温室効果ガスの排出量を把握していますか。

N=127



問 21 温室効果ガス排出量算定のツールがあれば利用したいですか。

N=126



問 22 貴事業所で地球温暖化対策に向けて取り組みを実施する上で障壁に感じていることは何ですか。(複数回答)

N=125



まとめ

- ✓ 地球温暖化に対する取り組みの意義や取り組みによるメリット等の利益関心に繋がる情報提供を行い、地球温暖化対策への意欲を高める必要があります。
- ✓ 温室効果ガスの排出量の把握の意義や取り組み方法等について周知し、支援策やインセンティブを付与する施策等を検討していく必要があります。
- ✓ 地球温暖化抑制に関する知識や情報、技術等を習得できる機会を増やしていく必要があります。

⑦ 事業者における補助金・交付金の活用促進

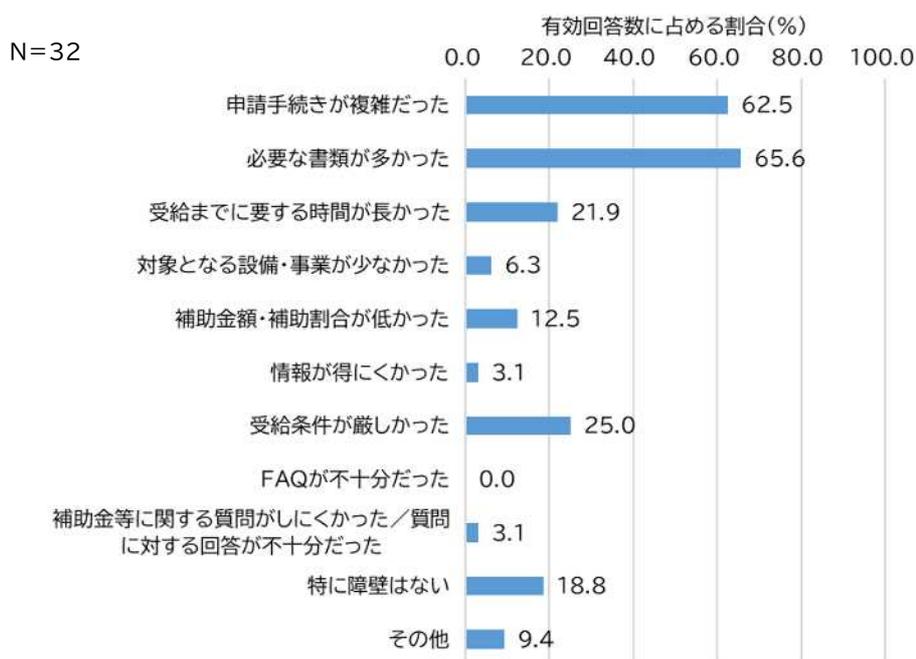
【アンケート結果内容抜粋】

- ◆ 再エネの導入や省エネ化のために国や市、民間団体等の補助金・交付金を「活用したことがない」が約 75%に上り、市内事業者の補助金・交付金活用率は低い状況となっています。（問 23 グラフ参照）
- ◆ 補助金・交付金を活用したことがある場合、その際の障壁として「必要な書類が多かった」が約 66%、「申請手続きが複雑だった」が約 63%と、手続き時に障壁を感じたとの意見が多くなっています。（問 24 グラフ参照）

問 23 再エネの導入や省エネ化のために国や市、民間団体等の補助金・交付金を活用したことがありますか。（複数回答）



問 24 補助金・交付金活用の際に障壁となったことはありますか。（「活用したことがある」回答者のみ）（複数回答）



- ◆ 補助金・交付金を活用したことがない場合、その理由として「対象となる設備・事業がなかった」が約 34%と最も多く、次いで「存在を知らなかった」が約 32%となっています。（問 25 グラフ参照）
- ◆ 今後、市が補助金・交付金を実施する場合に望むこととして「手続き・必要書類を簡素化してほしい」が約 68%、次いで「情報を周知徹底してほしい」が約 51%、「豊富な補助メニューを揃えてほしい」が約 46%となっています。（問 26 グラフ参照）

問 25 補助金・交付金を活用しなかった理由は何ですか。（「活用したことがない」回答者のみ）（複数回答）



問 26 今後、市が補助金・交付金を実施する場合に望むことはありますか。（複数回答）



まとめ

- ✓ 事業者のニーズを把握し、国や県に対して補助事業の拡充や要件の緩和など、活用しやすい制度となるように要望する必要があります。
- ✓ 販売事業者からのアプローチなど、事業者が受け取りやすい情報提供の手法を検討し、周知を図る必要があります。
- ✓ 市の補助金・交付金の活用促進のために申請手続きのDX化を図るなど、申請の際の負担を軽減することも有用であると考えられます。

自由回答記述

「その他、豊橋市の地球温暖化を抑制するためのご意見、アイデア、要望等」

【市民アンケート自由回答記述抜粋】

※自由記述については、原文どおりの記載を基本としている。

＜交通・移動手段＞
<ul style="list-style-type: none">• 自家用車の利用をなるべく減らせるよう、公共交通機関を利用しやすい施策をお願いします。• 今なら間に合うので市内の運輸インフラを持続する方向にシフトして欲しいと思います。子供料金や学生割引は運輸事業者の自腹は全く理にかなっていません。• 病院やスーパーを通る路線のバスを作り、個人の車を減らすなど。• 豊橋の公共交通機関の整備が劣っている。移動するのに、どうしても車を使ってしまう。東海道線と渥美線、そして市中心部のバス輸送、これにはずれる地域が多いので、これからの豊橋を長い先を見越して、時間をかけて計画していつてもらいたい。• 路面電車の拡大、各地域に乗り合いバスを設けるなど、地域外の方でも利用しやすい公共の乗り物、そして、早々に切符やバス料金を現金だけでなくマナカや電子マネー(PayPay や楽天ペイ、AEONPay など)でも支払えるようにして欲しいです。

＜ごみの削減・資源の有効活用＞
<ul style="list-style-type: none">• 飲食店や学校の残飯の循環。(飲食店は安く販売するサイト、学校の残飯は量の調整や別の場所での活用など) 廃棄品削減のためフリーマーケット開催など• 資源をうまく回収する取り組み・廃棄物を減らす活動• ごみ資源を再利用したりしていると思われませんが、技術大学などと協力しながら、新しい産業を育てていけるといいと思います。• 530 運動ももっと市外にアナウンスした方が…素晴らしいのに。

＜エネルギー関連＞
<ul style="list-style-type: none">• 省エネに力を入れるべきで、太陽光パネルを増やしてはいけない。太陽光パネルは環境破壊なので減らすべきだ。• 山林に、ソーラーパネルを設置しないことが重要。• 太陽光・風力発電を地区・町内毎に行えるようになると、災害時にも対応出来るのではないかと思う。• クールシェア、ウォームシェアなどがもっと気軽にできるようになるといいと思います。

＜環境教育・啓発の促進と工夫＞
<ul style="list-style-type: none">• 小中学校での環境教育を行うことが家庭に浸透しやすいと思うので、出前講座やイベントなどで積極的に普及してほしい。• 義務教育期間での地球温暖化に関する教育だけでなく、市民への啓発のための機会(講演会など)が増えるといいと思います。• 豊橋市が地球温暖化に取り組んでいることを知らなかったなので、もっと発信してはどうか。子育て世代ならココニコとか、ほぼ行くと思うので、そこで啓発とか??広報とよはしは、アパートには届いておりません。どうしたら届くかも知りません。自治会に入っていないから??かな??• 節約した金額や削減した二酸化炭素の質量等で効果を可視化できれば、地球温暖化対策へのモチベーションにつながると思う。

【事業者アンケート自由回答記述抜粋】

※自由記述については、原文どおりの記載を基本としている。

<交通・移動手段>

- 豊橋は車社会であり、渋滞も多いと感じている。公共交通機関、特に市内線 upper を活用しやすく整備いただけると良いと思う。
- 車社会である豊橋市では、まだ燃料依存の車種が多いですが、信号機が赤になって引っ掛かり、停発車する回数が多いと感じます。機械の発停と同様に燃費が著しく悪い⇨排出ガスが多いであろうと考えます。公安委員会のご担当かもしれませんが、一度掛け合ってみ直しをかけてみてはいかがでしょうかと思います。
- 市電の延長、本数増加、運賃補助で利用促進

<エネルギー関連>

- 豊橋市は風が強いので、風力発電の活用を希望します。
- ソーラーパネルは、基本ビル or 住宅屋根が私は望ましいと思う。ゴルフ場の横（山肌）とか、休耕田、雑地にソーラーパネルの設置には感心しません。（設置後のリスク 例：保水、見張り、農地減）新築の屋根にはソーラーパネル義務化。

<環境教育>

- 会社経営をする中で、本当に「環境」「省エネ」等、市・行政が取り組んでみえる事、考え方や方策に対して、意識・見識が低いです。ひとつには、時代の流れの中での価値観の違いがあるのかもしれませんが、私が特に思うには、それらに対しての「学校教育」が不足しているのではないのでしょうか？実践的な体験学習が最も有効ではないかとも思います。幼児期からの教育をお願いしたいです。

<補助・助成>

- 温暖化対策に対しての補助金、助成金を充実させ、市民に PR していくことが推進のひとつだと考えます。
- 水銀灯が多いので、LED 器具の補助金制度を受けたい。